

## 大人も子どもも 夢がかなう場所

校長 三村美延

「子どもたちのいない夏休み中、先生たちは何をやっているのですか。」毎年よく聞かれる質問です。長期休業は子どもたちと同様に、教職員にとっても前の学期を振り返り、次の学期に向けて準備をする期間となります。まとまった時間を職員全員で共有できるので、資料室の整理をしたり指導方法の研修をしたりするわけです。指導方法の研修は校内で企画して行うこともありますが、2日にわたって開催される全国規模の研修大会に参加したり、授業で使う資料集めのために現地に赴いたりするなど、自身の関心や研究テーマに応じて個人で取り組めるのも長期休業中の特長です。

私もこの夏にいくつかの研修会に参加しました。そのうちの 하나가、東京ディズニーランドのカストーディアル（清掃業務とごみのリサイクル推進部門）の初代責任者である安孫子 薫 氏を講師とした教育講演会です。

東京ディズニーランドは、誰もが認める人気のテーマパークです。この夏休みにお出掛けされたご家庭も多いのではないのでしょうか。

講師の安孫子氏によると、東京ディズニーパーク（東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの総称。以下、パーク）が「夢がかなう場所」として、常識や予想をはるかに超えた成長を続けている要因は「何よりもゲスト（お客様）を最優先に考えなければならない。」という、ディズニーリゾートの創立者ウォルト・ディズニーの信念にあるようです。そして、その信念が正社員のみならず全ての部署のどのスタッフにも周知徹底されており、例えアルバイトスタッフであっても適切に行動できるような運営理念として明確化されているからだと話します。

パークのコンセプトは「大人も子どもも楽しめるファミリーエンターテイメント」です。そして、「お客様には（娯楽や満足ではなく）幸福感（ハピネス）や感動を与えること」を使命としています。つまり、全スタッフはお客様一人一人にハピネスを与えるために自分のできる精一杯のことをしていこうというのです。

「学校」も似ています。学校にとっての「ゲスト」は一般的には児童生徒と考えがちですが、私は教職員・保護者・地域の皆さんを含んでいると考えています。そのことを表すために、本年度改定した本校の教育目標に「児童・教職員・保護者・地域のすべての人の笑顔のために」という副タイトル添えました。次に、学校の大きな使命は「教育」ですが、これは知識や技能を教えることにとどまらず、未知の世界を知る感動を味わわせ、自分の未来に夢を抱かせることが目的です。そうした感動を児童生徒だけでなく、教職員、保護者、地域の皆さんまでも味わえるよう、教職員は（さらには皆で）自分にできる精一杯のことをしていきたいと思えます。

パークが発展してきた要因に、明確な運営理念がありました。本校でも2学期を前にして、学校教育目標について全教職員で再確認しました。保護者や地域の皆様に対しましても、懇談会や学校運営協議会等を通じて周知してまいります。一緒に大きな夢を描き、実現させてまいります。

（令和4年8月26日）

